

— セント・ルカ産婦人科 —

ルカ新聞



沖縄の海

向^ひ日^ま葵^{わり}

「神は、ご自分にかたごとく土から人を創造された。」

創世記 一一二七

「人は神の命令に背いてエデンの園の善悪を知る木の実をとって食べ、エデンの園から追い出された。」

創世記 三一一三

「エリザベスも不妊の女といわれていたのに身ごもっている。神にできないことは一つもない。」

ルカによる福音書 一一三六

「マリヤはイエスを産む。民を罪から救うからである。」

マタイによる福音書 一一二二

このようにしてイエス様は私たちを救うためにお生まれになりました。創世記のようにもともとは楽園で過ごすことができる立場でしたが、罪を犯したために追い出されました。この罪を背負った私たち人間を救うためイエス様がおいでになり、私たちの罪のために死んでくださり、神様と人間の間を取り持ってくださいましたのです。

しかし現在の世界情勢はいかがでしょうか。せっかくイエス様が神様と人間の間に入ってネゴシエーションをしてくださったのに、人間は自分勝手な行いで世界を益々不幸にしているように思えます。アフガニスタンはもとより、イラクにも「敵」という一言で侵略・攻撃をしています。力づくで押さえ込むことが正義という態度です。イラクはベトナム化するといわれていますが私はもっとひどい状態になることを危惧します。なぜならイラクでは周辺のイスラムの国々がすべてアメリカを敵とみなすようになったからです。最近の日本においても以前には見られなかったような嘩然とするような事件がたて続けに起こっています。心の貧弱が背景に見えます。

何が大切なのか、何がいま、一番しなければならぬことなのか、それは正しいことなのか、しばらく静かに考えてみる必要があります。そしてわからなかったらイエス様にお願ひしてみましよう。きっと一番の道を教えてくださるでしょう。



院長 宇津宮 隆史

不妊診療における 社会的サポート

不妊症の検査、治療は1978年の体外受精—胚移植の成功によって革命的な進歩を遂げました。その後、体外での配偶子、胚の観察などを通してさまざまな方面からの研究が進み、さらに1991年の顕微授精による妊娠によって、極端に言えば子宮と1個の卵子と1個の精子があれば赤ちゃんが望める時代に入っています。

しかし、不妊症の患者さんは、社会が不妊症治療の医学、技術的な面に眼を向けられていた間、その精神的、社会的なストレスに耐えつつ治療を進めて来ざるを得なかった現実があります。このように不妊症診療、特に生殖補助医療（ART：Assisted Reproductive Technology：体外受精や顕微授精など不妊治療の先端医療）においては患者さんに対して考えておかねばならない3つの重要なサポートすべきポイントがあると思います。「医学、技術的サポート」、「精神的サポート」そして「社会的、経済的サポート」です。

まず「医学、技術的サポート」については各種研究会、学会、研修会などに加え、昨年からは生殖医療に大きな役割を果たす胚培養士（卵子や精子、受精卵を扱う）の資格試験が始まりました。今年は2回目の試験があり、80人あまりの正式な胚培養士が誕生し、当院でも8人全員が晴れて胚培養士の資格を得ました。この制度によって配偶子、胚の扱いの知識と技術の標準化が実現し、さらにいままでは単なる検査技師、ラボ・スタッフであったスタッフが正式な胚培養士として身分の保証が

なされるようになりました。また医師についても2年後の2005年から生殖医療専門医制度が発足するようです。

次に「精神的サポート」について、不妊症の患者さんの中にはその家族、社会環境、及び治療の重圧などにより精神的ストレスを抱えている場合が多いことがあります。これらは看護、ラボ・スタッフによる情報提供や相談により比較的容易に解決できる場合が多いのですが、なかには専門的な心理学知識を身に付けた心理士による心理療法・カウンセリングが必要な場合も見られます。現在、心理学を専門に修めた心理士が不妊クリニックにいるのは全国でも当院を含め、3—4か所しかありません。この不妊カウンセリングについてはここで述べたように単に不妊診療施設の看護、ラボ・スタッフが片手間に心理学を勉強したくらいでは不可能で、最近はこのようなスタッフの誤った知識によりかえって患者さんに不利益をもたらす危険性が指摘されています。オーストラリアやヨーロッパでは心理学の学位が要求されているほどです。そこで日本でも今年から「日本生殖医療心理カウンセリング研究会」が立ち上げられました。その委員会構成メンバーは半数が心理学関係者、のこりが医師と看護、ラボ・スタッフとなっています。これにより、胚培養士の場合のように、精神的なサポートにおいても確固たるルールと資格が確立されると期待されます。今後は不妊診療施



設においては常勤、非常勤にかかわらず専門の心理士とチーム・ワークが組める体制が要求されるようになるでしょう。

さて、「社会的サポート」においては、その重要な点である経済的側面がもっとも大きな問題として挙げられます。この点についてもわれわれは今までさまざまな調査、研究を行ってきました。そしてその結果にもとづいて、いろいろな場面で発表、主張してきました。さらに不妊治療が保険適用の少ない、私費診療の部分が多いことが患者さんに対して経済的な圧迫になっていることを指摘してきました。またその点についてわたしは数年前、日本産婦人科学会の30数名の理事に直接質問と依頼を行いました。しかし何の返答も得られませんでした。しかしこのたび、署名運動を働きかけ、国会請願を行うことができ、大分県選出の釘宮盤衆議院議員が厚生大臣、総理大臣に要求していただき、その結果、不妊治療に対する助成金が得られるようになったことはうれしいことです。

不妊症は夫婦の10組に1組いるといわれ、国民の10%が罹患している疾患です。またその原因はほとんどが子宮内膜症や卵巣機能不全、乏精子症などの各種の病気を原因とした明らかな「疾患」です。それらの原因があるからその結果、赤ちゃんが授かっていない。不妊治療はそれらの疾患を治療することです。その結果赤ちゃんが授かるようになる。体外受精も腎疾患の

透析治療と同じく、体内でその機能が果たせないから体外で代行してあげる行為です。

ここで不妊治療には倫理的問題が存在するといわれますが、しかし他人の配偶子を用いる治療や代理母のような治療は通常の不妊治療とはまったく次元が異なることを明確にしなければなりません。確かに非配偶者間の治療は不妊治療である人工授精や体外受精の技術を利用していますが、目的が異なります。次元が異なります。不妊診療の保険適用を考えるときはこの問題を意識的に除外して論じなければならないと思います。またARTの妊娠率は1回当たり20～30%であり、成功率が低いといわれますが、不妊でない夫婦の自然妊娠でも1回の排卵につき妊娠率は18～35%といわれています。それに比較するとこの治療法は既に完成に近いことがわかります。

このような事実から、不妊治療はすべて保険適用されるべきであり、またそれが国民は平等に健康な生活を送ることができるという憲法にのっとった権利でもあると思います。そうは言っても保険財政は厳しいものがあります。今回、補助金が下りるようになったのは喜ぶべきことですが、あくまで不妊治療の保険適用を求めていきたいと思います。

セント・ルカ

2003年8月24日(日)生殖医療研究所で第10回セント・ルカセミナーが行われました。ご講演をして頂いた先生方には、貴重なお話を頂き、とても勉強になりました。

「異常精子と卵子活性化の関係」

年森 清隆 先生 (千葉大学大学院医学研究員形態形成学教授)

「着床における内分泌 免疫相関」

森 崇英 先生 (京都大学名誉教授 醍醐渡邊クリニック不妊センター長)

「助妊 助産 助生 助死」

品川 信良 先生 (弘前大学名誉教授)



▲後列、宮川先生、荒木先生
前列、品川先生、院長、森先生、年森先生



◀品川先生



全国から約50名の参加がありました

今回初の試みとして、当院で体外受精を受け子供に恵まれた元患者さんお二人にお話を頂きました。

*** Fさんのお話は、妊娠に至る迄の10年間の苦悩の日々をお話してくださいました。**

- 治療期間10年 流産3回 体外受精13回目で妊娠。
 - この子の命にめぐり逢えて、子供を授かった事が本当に不思議でなりません。
 - 子宮筋腫（後で内膜症と判る）で「子供は、諦めて子宮を取りましょう」と言われ、子宮を取るなんて考えられないと、あちこちの病院を転々しました。
 - 原因は私にあるから、他の女性だったらすぐ子供ができるのにと離婚も考えました。
 - 夫婦の問題、お金の問題、いつまで治療が続けられるのか先の事が見えないので不安でした。
 - 主人はとても協力してくれて一番の理解者でした。
- ・・・等々

セミナー開催

* Mさんのお話は、先生方に七つのお願いをされました。

一つ、不妊症の人の多さを世間にアピールして欲しい。

十組に一組が不妊夫婦という現実、世間はまだ浸透していない。結婚すれば子供ができるのが当たり前と思っている。先生方は、世間の非常識に異議を唱えて欲しい。不妊は一般的な病気であることをどんどん言って欲しい。

二つ、不妊治療をする病院に相談相手が欲しい。

私たちは子供を授かることができず悩み苦しんでいる。それに加えて赤ちゃんはまだ？と、本人の気持ちを考えないで発言する人の多さに更に苦しめられる。先生や病院のスタッフが私たちの味方になってくれたらどんなに心強いことか。

三つ、患者同士で情報交換ができる場をつくって欲しい。

私は先輩患者の情報がステップアップする決め手になった。私も知っている情報は後輩に伝えたいと思い、セント・ルカの患者と看護師さんを結ぶ新聞を作った。患者同士気軽に話し合える場を提供して欲しい。

四つ、治療に関する情報はしっかり患者に知らせたい。

どの治療を、どれだけの期間続けられるか、ゆっくり話し合える情報を与えて欲しい。納

得のいく説明を受けた上で治療を続けることができれば、たとえ子供が授かることなく治療を終えたとしても決して後悔はしないだろう。

五つ、望みのある患者を早くから見捨てないで欲しい。

ある病院は、望みが薄い人は早くから治療を打ち切るという。それは、体外受精の成功率を上げるためだと思う。13回目の治療で妊娠した私がもしその病院だったら授かることはなかったろう。

六つ、治療費を安くして欲しい。

不妊治療にかかる費用はあまりにも高すぎる。家庭状況によって受けられる治療や回数が決まってしまうのは悲しいこと。不妊治療の保険適用を関係機関に働きかけて欲しい。

七つ、患者の気持ちを尊重して欲しい。

子供が四歳の時、夫を亡くした。子供を残してくれてありがとうという気持ちが心の底から湧いてきた。私達が不妊治療を受けなかったら子供がこの世に存在しなかった。子供を残したい強い気持ちがあっこそ治療を続けた。そう考えると患者の気持ちが一番大切なものではないかと思う。

待合室に置いてあります。是非読んでみてください！

るるんルカ新聞

- 1993年8月～1999年12月迄不定期ですが、患者さんが作る患者さんのための新聞を作成していただきました。



クローバー

- 2001年開院10周年のプレゼントとして、元患者さんからいただきました。現在治療中の患者さんへ寄せられたメッセージで、文集にして一冊の本にまとめました。



「世界体外受精会議記念賞」 受賞

第21回 日本受精着床学会学術講演会において発表した
「ストローを用いた安全な前核期胚 Vitrification の臨床
応用」が表彰されました。



公文 麻美 中村 幸雄先生 熊迫 陽子 宇津宮院長
(日本受精着床学会理事長)

看護部だより

「不妊治療患者における経済面の調査」

看護部 品矢 悦子

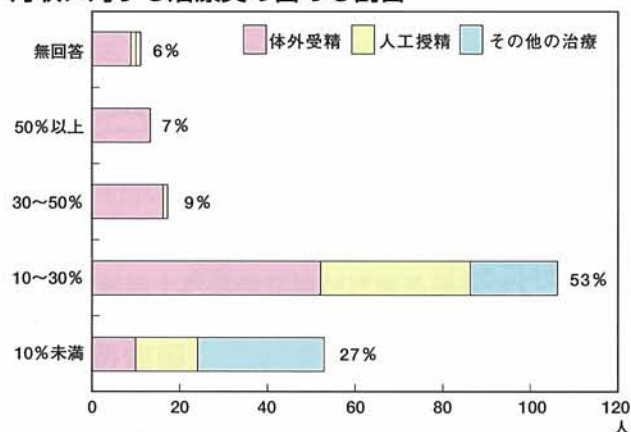
当院では1992年より、不妊診療や公的補助について署名運動を行い、2002年には2回の国会請願を行いました。現在、一部の地域において補助金制度には、いたりしましたが、保険適用にはなっていません。

そのため、不妊治療中の患者の経済的負担は大きい

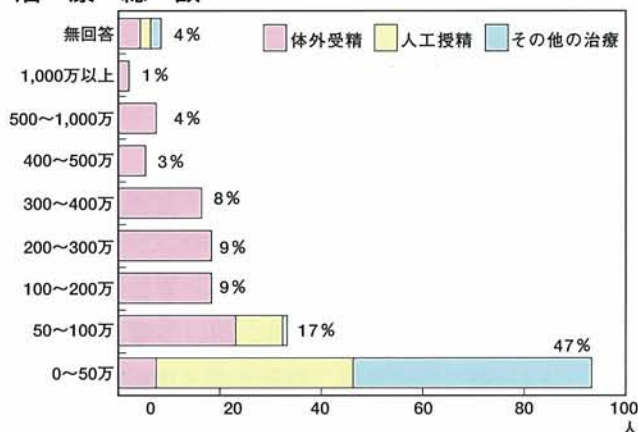
と考えられますが、その実態は社会にはあまり知られていません。

そこで、不妊治療中の患者200名に質問紙調査を行い、第48回日本不妊学会で発表しましたので報告します。

月収に対する治療費の占める割合

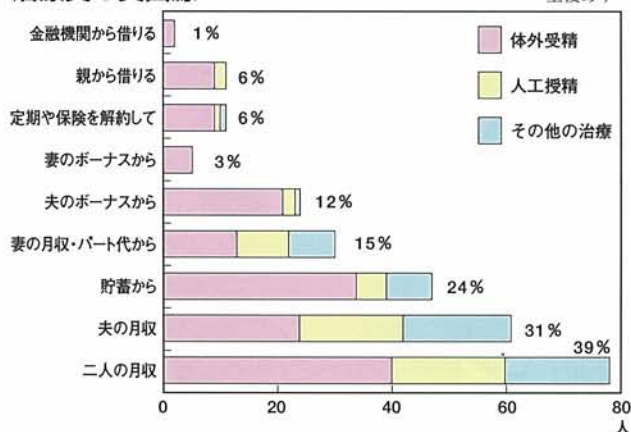


治療総額

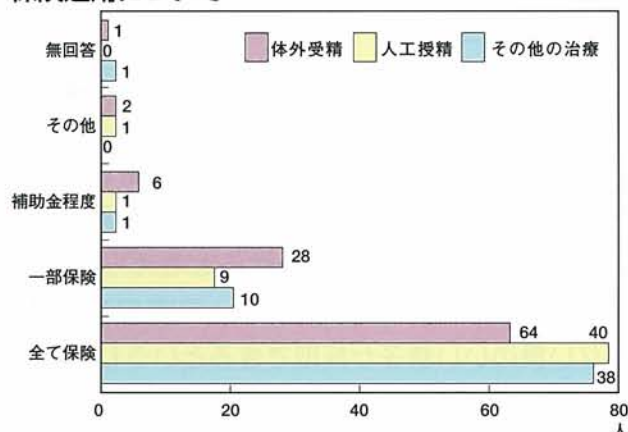


治療費の支出源

重複あり



保険適用について



(まとめ)

治療総額は、50万以上かかっています。

支出源は月収だけでなく、貯蓄などにも依存しており、高額な場合は、金融機関から借りるという深刻な問題も見られます。

治療患者の経済的負担は大きく、保険適用の希望は強いことが解りました。

当院では、この調査結果を社会にアピールし、保険適用への働きかけを今後も行っていきたいと考えています。

不妊学会発表の後、共同通信の取材を受け、新聞に掲載されました。質問紙調査の協力をしていただいた方、ありがとうございました。

❄️ 研究室だより ❄️



最近よく耳にすることば・・・

RESA（逆行性精巣上体精子採取法）：精管より精子を採取する方法です。もともと無精子症の患者さんのために考案された手術的精子採取法で、精管に注射針を穿刺するだけなので傷はほとんど残らず、簡単な手術で終わります。RESAで精子が確認されなかった場合は、MESA（精巣上体精子採取法：精巣上体より精子を採取）→TESE（精巣精子採取術：精巣より精子を採取）と段階的に進めていきます。（下図参照）これまでは無精子症患者さんだけに行われてきたこの方法ですが、当院では射出精子がとれる患者さんにもRESAを行っています。



RESA のながれ



Q. 射出精子がとれるのにRESAを行うメリットはなんでしょう？

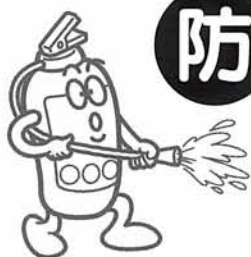
A. 精子は精巣で作られますが、左図からわかるように精巣を出てから長い道のりを経て射出されます。その過程で精子は運動能を獲得していきますが、同時に炎症や悪い環境に暴露されるなど、マイナスの影響も受けると考えられます。そこで、RESAを行うことにより暴露を受けていない質のいい精子が採取できるというわけです。

Q. RESAを行うデメリットは？

A. 第一には、患者さんに負担がかかることです。

また、射出精子がとれるからといって必ずしもRESAで精子がとれるとは限りません。その場合はRESA → MESA → TESEと進めるかどうか、緒方先生と相談していただきます。また、RESA精子を用いた体外受精がどのような患者さんに有効であるか、まだはっきり分かっていません。それがわかるまでは、これまでの体外受精で妊娠不成功が続いているような患者さん、原因不明の患者さんにお勧めしています。





防 災 訓 練

12月2日 防災訓練を行いました。
火災時は初期消火が大事ですが、何よりも
火事を起こさないことが一番です。



◀救助袋・非常用ロープからの脱出を体験しました。▶



次回は、半年後に、夜間火災を想定して訓練を行う予定です。



受付より



みなさん、こんにちは。寒くなってきましたが風邪などひかれてないでしょうか？

院内もクリスマスツリーや電飾をつけクリスマスモード突入です☆

ところで・・・待合室の掲示物はみて頂けてますでしょうか？

行事・休診のお知らせ、学会の報告、みなさんにお伝えしたいことを掲示しています。より新しい情報を！と日々更新しているのですが、院長には『もっととどんどん変えんね!!!』といつもお尻をたたかれています>_<

そんな院長の愛のムチに応えられるよう、患者さんの役に立つ情報を提供していけるよう、これからも頑張りますので、「こんな事を掲示して欲しい!」「もっとこうして欲しい!」

「変わってないじゃないか!」などご意見がありましたら、遠慮なくおしえて下さい。

寒さに負けないように“いつも笑顔(^-^)”で頑張りましょうね!!!



受付三女（梅田）

心理相談室より

上野 桂子先生



当院の心理相談室では、年間約50名の患者さんが利用されています。

愚痴をこぼしたい方、特別の悩みじゃなくても誰かとお話したい方、お気軽にどうぞ・・・。

毎日の診療でも外来に相談係が随時いますので、質問や不安に思うことなどありましたら、声をかけて下さい。

●● 外来の相談係 ●●
随時

●● なんでも相談 ●●
随時
主に毎週土曜日午後
予約制

●● 心理相談 ●●
毎週火・土の午前中
予約制

長崎 ハウステンボス



6月29日から1泊2日で、セント・ルカ社員旅行先発隊として、ハウステンボスに行ってきました。

総勢7名の珍道中。4月末に更生手続きが開始され、再建に向け歩き出したハウステンボスが以前とどう変わっているのか？期待半分、興味半分でした。ディベアキングダムにギヤマンミュージアム、展望バルーンに大航海体験、そしてカナルで開催される様々なショーに素晴らしい夜の景色、数えあげればきりがありません。宿泊はホテルヨーロッパ、贅沢すぎるほどの大きなお部屋にゆったりしたベッド、大満足の一夜を過ごすことができました。

翌日は私1人見学組と別れてアレキサンダー広場

の近くにあるガラス工房へ！オープンで作るネックレスに挑戦しました。好きなガラスをカットして、基礎になるガラスの上に好きなデザインでおいていき、オープンで焼いて、可愛いペンダントヘッドができました。旅行に行って自分のためのお土産を何か1つ作って帰るのも楽しいものです。

今回の一番のヒットは、クリームチーズ！水を切ったお豆腐を賽の目に切って、同じ大きさにクリームチーズを切って、形を崩さないように和えます。それを小皿に盛って鰹節とお醤油をかけて食べる！これがまたおいしくて、新しいチーズの楽しみ方を覚えました。あと、九州ではここでしか販売していない「ハイネケンの黒ビール！」これがまたおいしくて、また近いうちに是非是非再訪したいと思っています。素敵な旅行に参加させていただいて本当に感謝しています。ありがとうございました。

情報処理室 工藤由香



沖縄 第一陣

沖縄ダイビング班の思い出

10月20日、研究室から4名、情報処理室からの1名が沖縄のケラマ諸島にてダイビング体験をしてきました。那覇からケラマまでの移動は90分。日頃船に乗りなれない私たちは、船酔いと格闘しながらの厳しい出発となりました。しかし、ケラマに近づくにつれて海は青さを増し、空も明るくなりケラマに到着した頃にはすっかり船酔いも忘れ、周りの風景に目を奪われていました。ケラマの海は想像以上に青さが濃く、透明度も抜群でした。海の中では熱帯魚を見ては興奮し、自分の今居る不思議な空間を肌で感じる事ができ大変感激でした。ケラマにしかない魅力を存分に感じる事ができた幸せな1日でした。

平井 香里



沖縄 第二陣

沖縄2陣組は、9名で10/26～2泊3日の楽しい旅行でした。院長先生より「沖縄を旅する者は、日本で唯一地上戦のあった沖縄の過去の歴史に触れる事。

そして日本人として何かを感じて考える事…」の教えに従い、一日目の最初に南部戦跡巡りをしました。空港には事前に予約を入れておいたはずのジャンボタクシーがいません。帰りにお土産で一杯にしようと持って来たカバンをゴロゴロ引っ張りながら歩きます。やっと巡り合えた運転手さんは、私たちが到着後まっすぐに戦跡巡りするものとは露にも思っていなかったそうです。今時、最初に見学するのは老人会くらいだそうです。まさか私達のようなうら若き!乙女達!!が沖縄に着いて直行とは…。戦跡めぐりは戦後に生まれ育つ

いです。しかし、見学場所では私語もなく熱心に耳を傾けゆっくりと時間をかけ見学しました。国を守るために戦った兵士。巻き込まれた現地住民。今の平和を築くために犠牲になった方たちを思うと、声も出ない状態だったのです。そんな私達の姿にタクシーの運転手さんが「皆さん医療関係の方ですか？」と気づいたみたいです。

彼はそんな私達に、もうひとつの顔を見せ、何か考えて欲しかったのかもしれませんが。「米軍の基地に入ってみませんか？中で軽い食事でもしませんか？」と誘って下さいました。通常は突然行って入れるものではないそうですが、運転手さんが貴重なパスカードを私たちのために使ってくれたのです。こうして過去現在と、平和について考える旅が出来たのです。大変有意義で感慨深い時間を持つ事が出来ました。この時間以外は、やはり年頃の乙女たち(?)の旅行ですから、大変華やかで賑やかなものとなりました。これもまた楽しい思い出です。そんな時間と機会をもてた事に、大変感謝しております。

受付・渡邊



た私達には想像を絶する過酷な戦いで、今の平和をつくづくありがたく思いました。私達9名タクシーの移動中は皆様ご想像がつくと思いますが、大変かしまし



2003年 後期を振り返って

7. 5	第75回体外受精教室 参加者37名 参加〈佐藤順、平井、大津、足立、恵良、篠田、関〉	
7. 6	日本産婦人科学会大分支部会（大分）発表〈院長〉 「当院における10年間の妊娠成績について」	10. 23 職員旅行（沖縄組 第2陣）参加〈佐藤順、渡邊、佐藤千、佐藤晶、長木、江藤、篠田、工藤、原井〉 10. 25 第19回オリブの会 参加者4名
7. 12	第15回「赤ちゃん ～今ならきつと授かる～」講座（大分トキハ会館6F さくらの間） 参加者53名 講師〈院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生〉 参加〈佐藤順、工藤由、渡邊、公文、熊迫、足立、恵良、江藤、越光、篠田、松元、赤嶺、品矢、指山、上野〉	11. 1 第6回IVF研究会（大阪）参加〈佐藤千、平井、大津、院長〉 11. 5 全国の衆議院議員選挙出馬者へ不妊治療の保険適用についてのアンケート調査実施（1,033通） 11. 13 保健所立入り検査 11. 13 広島大学において研修 参加〈佐藤千、大津、熊迫〉 11. 15 第80回体外受精教室 参加者17名 参加〈佐藤順、佐藤千、足立、関〉 11. 15 第4回第2期オリブの会 参加者5名 11. 20 第34回大分市医師会医学会（大分）発表〈大津、熊迫、品矢、柴田〉 「体外受精による体外培養期間と産卵組織染色体異常の関係」（大津英子） 「ストローを用いた安全な前核期胚 vitrification 法について」（熊迫陽子） 「不妊治療患者における経済面の調査」（品矢悦子） 「不妊患者から見た非配偶者間生殖補助医療」（柴田令子） 参加〈工藤由、佐藤順、油布、上野、佐藤千、佐藤晶、公文、城戸、平井、長木、指山、二宮、岡、赤嶺、實崎、篠田、江藤、越光、江良〉
7. 14	片岡レディースクリニック（熊本）より研修のため御来院	11. 22 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会（福岡）参加〈佐藤晶、公文、大津〉 11. 29 第20回ガーネットサークル 11. 29 SOPHIA ART GROUP 研究会（神奈川県）講演〈院長〉
7. 16	第162回大分市医師会産婦人科臨床検討会 参加〈院長〉	12. 2 防災訓練 12. 6 JISART 定期会合（沖縄）参加〈院長〉 12. 14 講演会「親・子ども・提供者の視点から考えるAID」（東京）参加〈品矢、上野、院長〉 12. 20 第81回体外受精教室 12. 20 忘年会（トキハ会館） 12. 25 クリスマス会（セント・ルカ多目的ホール）
7. 19	第76回体外受精教室 参加者27名 参加〈佐藤由、熊迫、足立、恵良、関〉	
7. 19	第1回第2期オリブの会始動 参加者5名	
7. 24	大分県立看護科学大学 特別講義 講演〈院長〉 参加〈工藤由、實崎、指山、工藤、足立、恵良、熊迫、城戸〉	
7. 25	第43回日本産科婦人科内視鏡学会（京都）参加〈院長〉	
7. 26	生殖バイオロジー東京シンポジウム（東京）参加〈公文、熊迫、院長〉	
7. 28	片岡レディースクリニック（熊本）より研修のため御来院	
8. 9	安田精神保健夏期講座4（東京）参加〈城戸、長木、實崎、品矢、指山、院長〉	
8. 16	Bourn Hall Clinic における看護トレーニング（イギリス）参加〈柴田〉（期間8/16～8/24）	
8. 16	第76回体外受精教室 参加者18名 参加〈佐藤順、大津、清水、足立、上野〉	
8. 23	第10回セント・ルカセミナー懇親会（別府）	
8. 24	第10回セント・ルカセミナー（セント・ルカ多目的ホール） 講師 年森 清隆 先生〈千葉大学大学院形態学教授〉 「異常精子症と卵子活性化の関係」 講師 森 崇英 先生〈醍醐渡邊クリニック、京都大学名誉教授〉 「着床の仕組みにホルモンと免疫はどのように関与しているか」 講師 品川 信良 先生〈弘前大学名誉教授〉 「助妊・助産・助生・助死」 講師 当院で治療経験のある元患者さん（Mさん、Hさん） コメンテーター 宮川 勇生先生〈大分医科大学 教授〉	
8. 25	高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導	
8. 30	第18回オリブの会 参加者4名	
9. 2	第19回ガーネットサークル OG 1名、参加者5名	
9. 6	第16回日本心理医療学会連合大会 参加〈上野、院長〉	
9. 7	日本生殖医療臨床心理カウンセリング研究会 参加〈上野、院長〉	
9. 6	第2回第2期オリブの会 参加者6名	
9. 7	第3回 ARMT 実技講習会（東京）参加〈佐藤順、城戸、平井〉	
9. 15	京都大学名誉教授 森英教授、広島大学島田昌之先生と研究打ち合わせ（広島）参加〈佐藤千〉	
9. 27	第78回体外受精教室 参加者28名 参加〈油布、佐藤千、清水、恵良、原井〉	
10. 1	第48回日本不妊学会（東京）発表〈工藤由、大津、二宮、品矢、上野〉 参加〈院長〉 「生殖医療領域におけるデータベース管理の重要性」（工藤由香） 「ヒト胚初期脱着膜におけるIL-8、MCP-1の産生」 「正常妊娠と自然流産の比較」（佐藤千賀子） 「体外受精による体外培養期間と産卵組織染色体異常の関係」（大津英子） 「不妊治療で妊娠困難な40歳以上の心理ケアのあり方」 —サポート・グループの取り組みについて—（二宮 睦） 「不妊治療患者における経済面の調査」（品矢悦子） 「サポート・グループ参加が不妊症患者の心理的ストレスに及ぼす効果について」 —POMS 得点の変化より—（上野桂子）	
10. 1	第48回日本不妊学会/第21回日本受精着床学会ブース展示（東京）〈工藤由、油布〉	
10. 3	第21回日本受精着床学会（東京）発表〈公文麻美、熊迫陽子〉 参加〈院長〉 「ストローを用いた安全な前核期胚 Vitrification の検討」（公文麻美） 「ストローを用いた安全な前核期胚 Vitrification の臨床応用」 （熊迫陽子 / 世界体外受精記念賞受賞演題）	
10. 3	第21回日本受精着床学会公開講座「保険適用を考える」（東京） 「保険適用を考える ～医療者の立場から～」パネリスト〈院長〉	
10. 10	広島大学 島田昌之先生ご来院・ご指導	
10. 11	第16回「赤ちゃん ～今ならきつと授かる～」講座（大分トキハ会館6F さくらの間） 参加者39名 講師〈院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生〉 参加〈油布、工藤由、梅田、佐藤晶、清水、江藤、篠田、赤嶺、指山、上野〉	
10. 17	第18回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会（大分） 参加〈油布、佐藤、梅田、城戸、平井、大津、熊迫、長木、實崎、足立、松元、赤嶺、恵良、江藤、原井、指山、院長〉	
10. 18	第79回体外受精教室 参加者35名 参加〈佐藤順、佐藤千、関、品矢〉	
10. 18	第3回第2期オリブの会 参加者3名	
10. 19	職員旅行（沖縄組 第1陣）参加〈油布、梅田、矢野、後藤、城戸、公文、平井、熊迫、恵良、柴田、指山、院長〉	
10. 23	5th World Congress of A PART（東京）参加〈院長〉 発表〈城戸、大津、柴田〉 「The efficacy of surgical sperm retrieval and ICSI for male factor」（城戸京子） 「The developmental potential and the chromosomal constitution of embryos derived from larger single pronuclei of human zygotes used in vitro fertilization」（大津英子）	
		「Attitudes towards the donation and the surrogacy of infertility patients in Japan」（柴田令子）
		「不妊治療の保険適用について」「セミナー医療と社会」（セミナー医療と社会） 「胚の凍結保存」「産婦人科治療 特集 必携 今日の生殖医療」（永井書店） 「?PN胚・胚盤胞期胚の安全な Vitrification 法と胚移植」 「生殖医療のコツと落とし穴」（中山書店） 「不妊患者への精神的サポート・カウンセリングの方法」 「生殖医療のコツと落とし穴」（中山書店）
		論 文 〈院長〉「How many times should we try ART?」Hum.Reprod.（投稿中） 「The Efficacy of Hatching Stage ET」Fertil.Steril.（投稿中） 「A prospective, randomized study of embryo transfer results at day-3 or at hatching stage」Hum.Reprod.（印刷中） 「Transfer of Embryos Vitrified and Thawed by Ascertaining Synchronicity between Embryonic Development and Endometrial Maturity to Determine the Implantation Window.」Hum.Reprod.（投稿中） 〈長木美幸〉「体外受精反復無効例に対する hatching stage 胚移植の試み」 日本不妊学会雑誌 第48巻 第1、2号（掲載） 〈熊迫陽子〉「不妊因子が卵管上皮細胞の培養に与える影響」 日本不妊学会雑誌 第48巻 第1、2号（掲載） 「感染防止のためストローを用いた前核期胚 vitrification 法による妊娠成功について」 臨床婦人科産科（掲載予定） 「Successful pregnancy after the vitrification of zygotes using commercial vitrification solutions and conventional straw to protect from infections in the liquid of nitrogen」Fertil.Steril.（投稿中） 〈大津英子〉「The developmental potential and the chromosomal constitution of embryos derived from larger single pronuclei of human zygotes used in vitro fertilization」Fertil.Steril.（印刷中） 〈平井香里〉「新しく開発された培養液 HFF 99のヒト体外受精への臨床応用」 日本不妊学会雑誌 第48巻 第1、2号（掲載） 「Implantation window を考慮した Vitrification 凍結融解法の検討」 日本受精着床学会雑誌 20:75-77、2003（掲載） 〈公文麻美〉「A Vitrification Method by Means of a Straw to Prevent Infections in Mouse Pronuclear Embryos」 Journal of Mammalian Ova Research Vol.20 No.3 124-128 October 1, 2003（掲載） 「感染に対して安全な vitrification 法のマウス前核期胚における検討」 臨床婦人科産科（掲載予定） 〈城戸京子〉「男性因子以外の不妊原因における ICSI の有用性」 日本受精着床学会雑誌 20:156-158、2003（掲載） 〈佐藤晶子〉「体外受精において生じた大型1前核を持つ異常受精卵（1PN）の胚盤胞到達率とその染色体核型について」 日本不妊学会雑誌 第48巻 第1、2号（掲載） 〈實崎美奈〉「不妊症患者に対するサポートのあり方」 日本不妊学会雑誌 第48巻 第3、4号（掲載）

妊娠報告件数
(2003.7.1～2003.12.1)

体外受精、顕微授精等
51件
*
その他(体外受精以外)
66件

計 117件

編集後記

私たちK・Kの学会発表が運良く受賞し、また職員旅行で沖縄の海や魚と仲良しになり、いろんなことがあった一年ももう終わろうとしています。一年を振り返ると、やはり一番の思い出は学会賞をいただいたことです。この研究は一年以上かかってやっと発表までたどりつくことができました。その間、私たちの実験に協力していただいた周りの方々、そしてたくさんの実験用卵子を提供してくれたマウス達に感謝したいです。そして一人でも多くの患者さんの妊娠の手助けになれば、これ以上のご褒美はありません。これからいろいろなことに興味を持ち、課題に取り組んでいきたいと思っています。
(Y.K.)

